

令和4年度第4回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会議事録

1. 会議の名称

令和4年度第4回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会

2. 開催日時

令和5年3月17日（金）14:00～15:30

3. 開催場所

我孫子市手賀沼親水広場 水の館3階研修室

4. 出席者

【選考委員】

上村文明委員長、新保美恵子副委員長、嶺岸勝志委員、檜崎容子委員、
工藤文委員、小澤俊輔委員

【指定管理者 株式会社あびベジ】

大炊三枝子代表取締役、鈴木康仁専務、田口忠常務

【事務局（農政課）】

秋田芳博課長、斎藤寿義課長補佐、景山雄一郎係長、西田集主任、
伊藤臣人主任主事

5. 議題

令和4年4月から12月までの中間報告について

6. 公開・非公開の別

公開

7. 傍聴人及び発言者の数

0名

8. 会議概要

農業拠点施設指定管理者である株式会社あびベジから令和4年4月から12月までの中間報告として令和4年度の運営状況報告を行い、その後、選考委員からのヒアリングを行った。令和4年度の運営状況に関する指定管理者のヒアリング内容は以下のとおり。

(あびベジ入室・あびベジから令和4年の中間報告)

A 委員) ありがとうございます。それではヒアリングを行いたいと思います。質問のある委員はお願いします。

B 委員) 役員報酬の適正化を図るために報酬額を上げたこと・光熱費増加・物価高が想定以上な状況であったが、利益を確保できていることは安心しました。

まず、飲食部門に対する質問です。物価高の中、原価を抑えられているように思うが、どのような対策を取っているのでしょうか。

あびベジ) 原価率を下げるために職場全体で努力しました。特に廃棄ロスを無くすために導入した「仕込み残チェックリスト」により、無駄な仕込み及び仕入れが減り、原価率を抑えることができました。

B 委員) コロナ禍による影響が落ち着いてきたことから、市民還元のイベントを再開してきており評価します。他団体とも連携するなど農業交流体験の事業に力を入れているように思われますが、収益性としてはあるのでしょうか。

あびベジ) この事業は食育推進の一環として行っています。宣伝も兼ねた事業となっているので、利益を出せる収益構造にはなっていません。

C 委員) 物価高、光熱費上昇という社会情勢の中、直売所部門の12月までの収支は計画以上となっているが、どのような要因があったと考えますか。

あびベジ) 売上額が上がっていることが要因の一つです。また、仕入れの見直しを図り、適正な価格で適正量を仕入れ、販売することで利益率を上げることができました。しかし、年度途中で光熱費が上がってから利益幅が減ってきているため、更に努力していく必要があります。

C 委員) 給食部門の支出が増加し、収支面での計画達成率が低い状況ですが、その点について詳しく教えてください。また、食育活動の取組についても教えてください。

あびベジ) 給食部門の利益は昨年より減少しておりますが、車のリースを1台増やしたことによる経費の増加が大きな要因です。金額的には大きな事業ではないため、経費が上がると収支状況が厳しくなります。食育活動は、農業交流体験以外にも、地元小学生が栽培した農産物の販売体験会などを実施しました。

D 委員) 加工部門の収支について質問です。加工部門の収支改善が見られないのが課題であると感じます。千葉県産業振興センターの専門家による改善指導を受けたとのことですが、具体的な指導内容やそれに対する取り組みを教えてください。

あびベジ) 課題としては、①生産量の少なさ、②作業工程の無駄、③顧客に対する商品の

価値伝達不足の3点が挙げられました。①、②に対しては、事前仕込みを計画的に行い、作業工程の効率化を図り、生産量を増やしていくことで解決していきます。③が最も重要で、地元の農産物を使った手作り商品を作っているにもかかわらず、仕入れ商品だと思われていた顧客がいるなど、店側が商品の価値を正しく伝える意思が見えないことが課題であると気づきました。店全体の課題でもあるため、店の魅力を伝えるスローガンを立て、積極的な情報発信を行っていきます。

D 委員) 情報発信の大事なツールとして、店のホームページがありますが、情報量が少ないように思います。次年度はより充実されることを望みます。

あびベジ) イベントや旬の野菜情報をInstagramを中心に発信していますが、ホームページも併せて充実化を図っていきます。

E 委員) 新たな客層として他地域から転入してくる住民や若年層を呼び込む方法を検討していくべきです。手賀沼を眺める環境や広場の機能があり、イベントも複数行っていることから新たな客層を惹きつける魅力は有しています。その点も意識した取り組みを期待します。

F 委員) あびこエコ農産物のキャンペーンによる情報発信は良い取り組みであると思います。また、店内では新規の利用者と思われる方を見かけることもあり、レジ通過者数も増えていることにも納得できます。物価高ではありますが、農産物の価格は安定しており、エコ認証のシールが付いた農産物が豊富であることから、安心して利用できるお店となっていることも利用者増加に繋がっているのではないかと思います。

農業者向けの座談会などの農業者向けの人材育成にも取り組んでいると伺いましたが、具体的に農業者が抱える問題はどのようなものがあるのでしょうか。

あびベジ) 新規就農者を中心に座談会と圃場見学会を行いました。そこで話題となった点としては、栽培に関する技術面や作付けする農地に関する悩みなどでした。様々な農業者がいるため、農家同士切磋琢磨できるよう、今後もこのような場を設けたいと思います。

A 委員) 外的要因である人件費、光熱費の高騰は仕方ないため、その分のカバーを考えた経営が必要です。値上げの状況について教えてください。

あびベジ) 飲食部門では昨年度2回価格改定をしています。加工部門は原材料の仕入価格が上がっていく中で、商品別に値上げできるものは上げています。直近では3月にも値上げをしているので、売れ行きの変化などの様子を見て、今後の価格設定の参考にしていく予定です。あとは、製造工程の見直しなどでカバーできないか検討していきます。

A 委員) 物価は上がっているが、客単価が上がっていないということは買い控えがおきているのではないのでしょうか。

あびベジ) 必需品への影響は少ないが、嗜好品などの売れ行きには変化が出ています。

- A 委員) コロナの終息後を見据えた農業拠点施設としての展望を教えてください。
- あびベジ) コロナ禍により内食需要、中食需要が高まり直売所の売れ行きは良かったが、今後は積極的な販売戦略が必要となります。コロナ禍前は水の館移転後の宣伝期間であったと考えており、来場者は増加してきました。一方、地元農産物を販売する店舗は近隣でも増加していることから、農業拠点施設としてのより一層の差別化を図らなければいけません。そこで、令和5年度は地元の旬の農産物が出荷される時期に合わせて、農産物だけでなく、旬な農産物を使った弁当惣菜などの加工品・レストランメニューと店全体で一体感を出したフェアを開催予定です。創業祭や農業交流体験では農家と消費者が交流できる場を作るなど、ここでしかできない経験の場を提供していければと考えています。
- A 委員) コロナの終息に向かって展開が変わってくると思います。この農業拠点施設はイベントを行いやすい環境であることから、積極的な取組を期待しています。

(株式会社あびベジ退室)

- A 委員) それでは、委員から寸評をお願いいたします。
- B 委員) 昨年度の実績が順調であったことから、取り組み姿勢がどうなるか心配でしたが、新たなイベントの開催、物価高に対する対策や人材育成など積極的な姿勢が見えたことは評価します。
- D 委員) 経営が最初の3年間で改善できたこと、安定してきたことは評価します。個人的には物価高であっても、地元産の新鮮な野菜には魅力を感じますが、加工品については、地元産を活用した商品であっても積極的に買いたいと思える商品が少ないように思います。ヒアリング時に他店との差別化、店側から訴える商品のPR不足など課題は出ていましたが、地元産を使った加工品の開発に力を入れて欲しいです。農業拠点施設として食育や農業体験も活発化されることを期待しています。
- F 委員) スタッフの対応、品物の質を見るとおもてなしの姿勢ができているように思います。また、アンケート用紙に記載した要望が直ぐに店内で確認できたことがあり、利用客の声が届いていることに驚きました。これからも応援していきます。
- A 委員) 事業開始当初と比べ、経営陣が農業者としての考えだけでなく、経営者としての考えをしっかりと持つようになった印象です。第2期の指定期間が今月で終了し、4月からは第3期の指定期間として、引き続き株式会社あびベジが運営を継続します。それに伴い、今回の選考委員会が現在の委員での最後の会議となります。3年間ありがとうございました。以上をもちまして令和4年度第4回農業拠点施設指定管理者選考委員会を閉会します。ありがとうございました。

以上